

平成 25 年 6 月の熱中症による救急搬送の状況

平成 25 年 6 月の熱中症による全国の救急搬送の状況（確定値）
を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成 25 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員は 4,265 人でした。これは、平成 24 年 6 月の熱中症による救急搬送人員 1,837 人と比べて、2.3 倍となっています。
- 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 2,108 人と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）1,479 人、少年（7 歳以上 18 歳未満）617 人、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）60 人の順となっています。
- 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 2,777 人、次いで中等症 1,344 人、重症 97 人、死亡 4 人の順となっています。
- 都道府県別人口 10 万人当たりの熱中症搬送人員は、沖縄県が最も多く 13.14 人であり、次いで岡山県 8.94 人、秋田県 6.63 人の順となっています。

【資料】

[平成25年6月の熱中症による救急搬送状況](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：日野原・伊藤・大迫
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成 25 年 6 月の熱中症による救急搬送状況（確定値）の概要

平成25年6月中の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

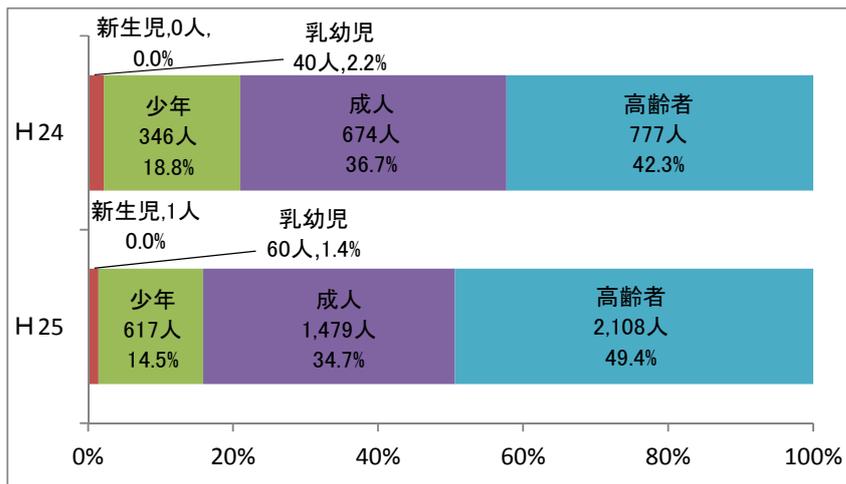
平成 25 年 6 月の全国における熱中症による救急搬送人員は 4,265 人でした。

これは、平成 24 年 6 月の熱中症による救急搬送人員 1,837 人と比べて、2.3 倍増加となっています。（集計 1、集計 2、集計 3 参照）

2 内訳

(1) 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、高齢者（65 歳以上）が 2,108 人（49.4%）と最も多く、次いで成人（18 歳以上 65 歳未満）1,479 人（34.7%）、少年（7 歳以上 18 歳未満）617 人（14.5%）、乳幼児（生後 28 日以上 7 歳未満）60 人（1.4%）の順となっています。（集計 1 参照）

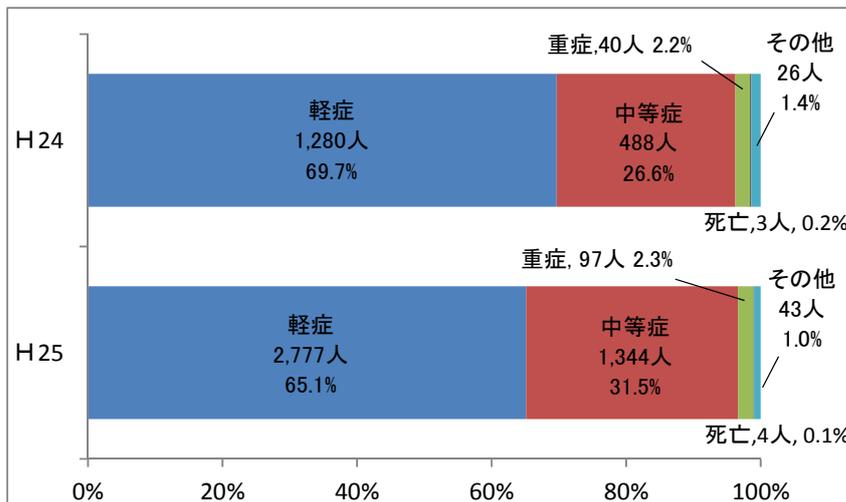
熱中症搬送人員年齢区分（構成比）



新生児：生後 28 日未満の者
 乳幼児：生後 28 日以上満 7 歳未満の者
 少年：満 7 歳以上満 18 歳未満の者
 成人：満 18 歳以上満 65 歳未満の者
 高齢者：満 65 歳以上の者

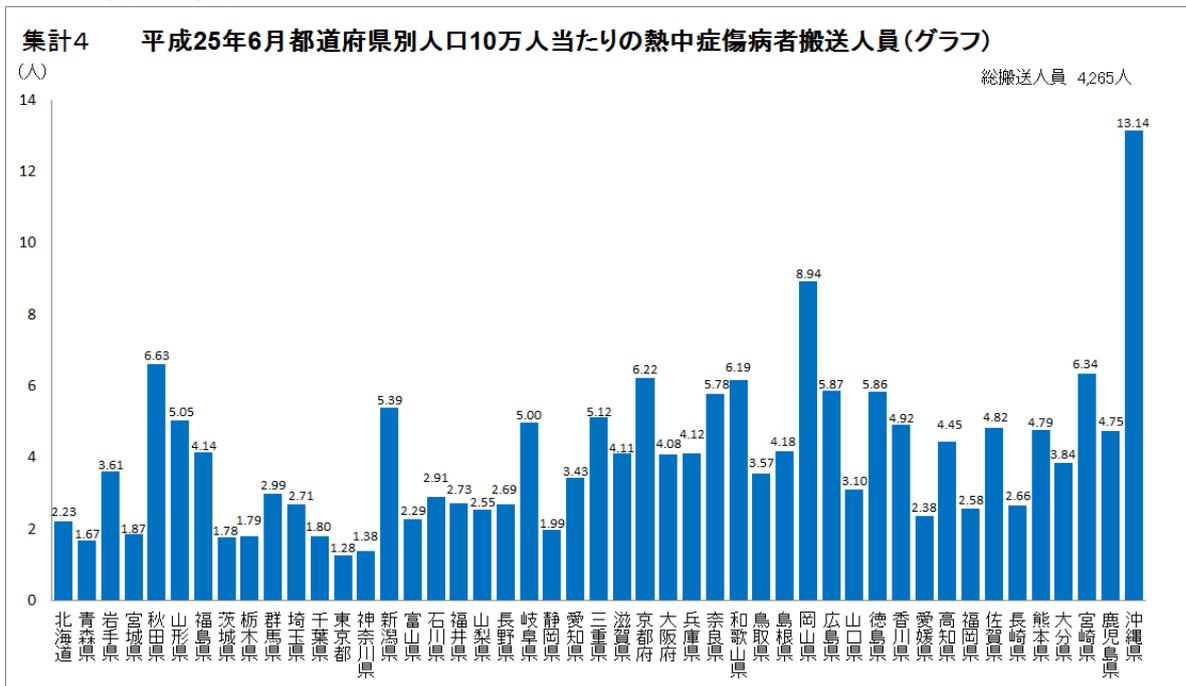
(2) 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 2,777 人（65.1%）、次いで中等症 1,344 人（31.5%）、重症 97 人（2.3%）、死亡 4 人（0.1%）の順となっています。（集計 1 参照）

熱中症搬送人員初診時傷病程度（構成比）



軽 症：入院を必要としないもの
 中 等 症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 死 亡：医師の初診時に死亡が確認されたもの

- (3) 都道府県別人口 10 万人当たりの熱中症搬送人員は、沖縄県が最も多く 13.14 人であり、次いで岡山県 8.94 人、秋田県 6.63 人の順となっています。(集計 4 参照)



3 その他

熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。また、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。

消防庁では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記のHPで熱中症に関する情報及び毎週、熱中症による救急搬送状況の速報値を提供しています。

消防庁熱中症情報

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考（気象庁「6月の天候」より）

月前半は、北日本、東日本日本海側では高気圧に覆われて晴れる日が多く、降水量は平年を下回った。また、東日本太平洋側、西日本では、日本の南の梅雨前線や台風第3号の影響で曇りの日が多かったが、関東や九州の一部以外では降水量は平年を下回った。12～13日は晴れて、また、日本の東の高気圧や台風第3号の影響で南から暖気が流入したため、北・東日本日本海側、近畿を中心に高温となり、全国の気象官署12地点で13日に6月としての日最高気温の高い方からの1位を更新した。沖縄・奄美では、梅雨前線の影響を受けにくかったため晴れた日が多く、気温は平年を上回り、降水量は平年を下回った。沖縄は14日頃に梅雨明けした（速報値）。

月後半は、北日本では、上空の寒気や梅雨前線の影響で曇りや雨の日もあったが、高気圧に覆われて晴れる日もあった。また、降水量は少ない状況が続いた。一方、東・西日本では、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多く、降水量は平年を上回った。東北、北陸は、18日頃に梅雨入りした（速報値）。

月平均気温は、中旬前半に暖かい高気圧に覆われ、南からの暖気の影響も受けたため、北・東・西日本で高くなった。梅雨前線の影響を受けにくかった沖縄・奄美では、晴れて気温もかなり高くなった。